Nov.2013 No.358

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER

シロオニタケ *Amanita virgineoides* ／笠原英夫氏撮影（2007.10.28 福井市文殊山）

福井の自然史情報

シロオニタケ

林内でひときわ目立つシロオニタケは、夏から秋にかけてシイ・カシ林やクヌギ・コナラ林などの地上に発生する大形の菌根菌です。傘の表面には多数のいぼが付着し、柄の上部には膜質のつばがあり、下部はふくらみます。多様な色や形から森の妖精とも呼ばれるキノコ。
秋の野山を散策して、キノコの魅力にふれてみませんか。

裏面にキノコについての詳しい解説があります。

「ふくい笏谷石の会」による
ミニ企画展！

ふるさと足羽山から

笏谷石のふしぎ!?

期間：平成25年11月23日(土・祝)～12月8日(日)※但し、休館日11月25日(月)、12月2日(月)をのぞく
会場：福井市自然史博物館

高野山金剛峰寺にある結城秀康の笏谷石製石廟

柴田勝家像と北の庄城址の笏谷石製石垣

足羽山から産出する青く美しい「笏谷石」は、1500年以上前から越前の人々によって利用されてきた歴史があります。近世には北前船などによって全国各地に運ばれ広がっていきました。そして笏谷石は、日本屈指の「笏谷石文化」とも呼ぶべき壮大な石造り文化を現出させたのです。福井に暮らす人々にとって笏谷石は身近な存在であり、この石に強い愛着を持っています。

「ふくい笏谷石の会」は、このような笏谷石文化を市民の力で蘇らせ、愛着と誇りを持って次の世代に伝えていくとともに、福井の魅力ある地域ブランドとして育て、福井のまちづくりに活かすことを目的として、活動しています。

今回のミニ企画展では、福井の宝「笏谷石」の魅力を、様々な角度から紹介します。

ミニ企画展

- 笏谷石の出土品展示
- 「笏谷石の歴史と文化」写真パネル展示
- 「笏谷石100選」映像スライドショー
- 笏谷石を訪ねて「まちあるきマップ」パネル展示
- 笏谷石ワークショップ
  「福井城址の刻印を彫ってみよう」
- 「越前笏谷石－石と人の旅－」ビデオ作品放映
- 笏谷石まなび巨大すごろく
  「しゃく丸の冒険」展示体験コーナー

関連イベント

- 知ろう！福井の宝
  「笏谷石」クイズラリー
- 親子で学ぼう「笏谷石教室」
- 市民公開講座「笏谷石と歴史建造物」
  講師：国京 克己氏(若越建築文化研究所代表)

リスを探してみよう

足羽山は実りの秋を迎えています。秋は多くの哺乳類にとって、厳しい冬を乗り切る準備の季節です。木の実を食べる動物といえば、リスを思い浮かべるという人が多いのではないでしょうか。福井を含め本州にはニホンリスというリスが生息しています。木の実を食べる印象の強いリスですが、実は雑食で昆虫やキノコも食べます。しかし、好物はなんといってもクルミ。栄養価が高く、腐りにくいクルミは冬を乗り切るために必要不可欠な食糧なのです。

足羽山にもニホンリスの生息記録があり、博物館ではクルミを持ったニホンリスの剥製を展示しています。しかし、最近その姿を見たという話を聞きません。ただ単に動きが素早く、樹幹に隠れて行動するため人目につかないだけなのか、それともすっかりいなくなってしまったのか。

ニホンリスがいる場所にはきれいに半分割されたクルミ(写真１)や、通称エビフライと呼ばれるリスが食べた後のアカマツの球果がよく見られます。足羽山にもオニグルミ(写真２)とアカマツが自生しています。これらの木の近くを歩くときには、足元に落ちているかもしれない食痕を探してみましょう。もし見つけることができたら、ご一報ください。(学芸員　鈴木 聡)

写真１
動物たちに胚珠を食べられた後のオニグルミの種子。左：ニホンリスの食痕、右：アカネズミの食痕。アカネズミの食痕は足羽山でもたくさん見られる。

写真２
ニホンリスやアカネズミの大好物：オニグルミの果実

秋の昆虫　鳴く虫たちの声に耳を澄ませてみよう

秋の夜、野外に出ると鳴く虫たちのにぎやかな声が聞こえてきます。『鳴く虫』とは、ふつうバッタ目（直翅目）のコオロギ科、キリギリス科などに属する昆虫を指し、これらは左右の前翅を擦り合わせて発音します。秋の鳴く虫たちの声を風流に楽しむ習慣は平安時代ごろからあったそうです。童謡『虫のこえ』にもスズムシ、マツムシ、クツワムシ、コオロギ、ウマオイという５種の鳴く虫が登場し、この歌が作られた約100年前の暮らしでは、鳴く虫が身近にいたことが伺われます。しかし、近年では都会を中心に、河川敷の開発などの影響もあってクツワムシ、マツムシなどの鳴く虫たちはめっきり減っているといいます。『ガシャガシャ』と大きな声で鳴くクツワムシは、19の都府県において自治体版のレッドリスト（絶滅の恐れのある野生生物のリスト）で絶滅危惧種に指定されています（日本のレッドデータ検索システムhttp://www.jpnrdb.com/ 2013年10月現在）。一方、福井市内ではまだ河川敷を中心にクツワムシやマツムシ、スズムシの鳴き声を楽しむことができます。街中で鳴く虫たちの声を楽しめる環境を大切にしたいものです。福井市の中心から程近い足羽山でも、秋になればクツワムシの鳴き声を聞くことができます。このほかにも、8月中頃からハヤシノウマオイが『スウィーッチョン』と機械の音のような声で鳴いています。博物館周辺の樹木やアジサイの木からは、カネタタキの『チンチンチン』という鳴き声や、アオマツムシの『リーリーリー』という声も聞こえてきます。皆さんもぜひ鳴く虫たちの声に耳を澄ませてみてください。（学芸員　梅村信哉）

「クツワムシ」
2013年8月24日　福井市朝宮（日野川河川敷）

「マツムシ」
2013年8月19日　福井市灯明寺（九頭竜川河川敷）

「ハヤシノウマオイ」
2011年8月27日　足羽山

「カネタタキ」
2011年9月10日　足羽山

「アオマツムシ」
2011年9月12日　福井市灯明寺（九頭竜川河川敷）

秋の植物　ケンポナシ（クロウメモドキ科）

6～7月頃に枝先に小さな淡い緑色の花を多数つけます。花の時期にはあまり目立たない木ですが、秋になると枝先にごつごつした果序※が見られ、あたり一面に甘い香りが漂うので、すぐにこの木と分かります。果序は太くねじれた果軸と丸い果実からなり、熟すと果序ごと落ちてきます。若い果軸には梨のような風味があり、乾燥した果軸にはレーズンのような味と香りがあり食用になります。足羽山では、西墓地の西側などで見られます。足羽山の麓には、ケンポナシに近縁で葉の裏や果実などに赤褐色の毛が生えるケケンポナシも自生しています。（学芸員　中村幸世）

※果序…果実のついた枝全体のこと

▲果期のケンポナシ（2013年8月31日足羽山）

ケンポナシの果序▶

博物館だより
No.358号 発行日 2013年11月10日

自然史リレーエッセイ 31

敦賀半島周辺に見られる珍しいキノコ

笠原　英夫（福井市自然史博物館協力員・福井きのこ会会長・きのこアドバイザー）

福井県初記録種

〔写真1〕
アキノアシナガイグチ　*Boletellus longicollis*
（2008.9.17　敦賀市明神崎）

アキノアシナガイグチ *Boletellus longicollis*〔写真1〕は、日本では沖縄県（西表島）・佐賀県・広島県のほか福井県（1990年10月、福井きのこ会員森沢誠爾氏により採集。）で発生が確認されているほか、シンガポール・マレー半島・ボルネオに分布するといわれています。現在のところ本県の敦賀半島が日本の分布北限となっている珍しいキノコです。

このキノコは、8月下旬～9月下旬にかけて敦賀半島のシイ・カシ・アカマツの混じった林内の地上に点々と発生します。傘（かさ）の大きさは3～7㎝、半球形からまんじゅう形をして、表面は赤褐色で、月面クレーターに似た凹凸があり、多くがしわ状となっています。傘と柄（え）の表面が著しく粘液（ナメコに似たぬめりがある。）に覆われているのが特徴です。柄は和名のとおり7～21㎝と長く、傘より淡色で、表面に縦の条線があり、下方がやや太まり、根元のところで一方へ曲がります。また、柄の上部には広くて白色の粘性膜質の丈夫なつばをそなえています。傘の裏面の管孔（かんこう）は初め淡黄色、のち暗オリーブ色となり、孔口（こうこう）も同じ色をしています。肉は淡黄色ですが、傘の表皮下は淡紅褐色をしており、色の変異はありません。和名は、広島県（安芸国）で最初に採集されたことからアキノ……とつけられています。食毒は不明のキノコです。

敦賀半島などが属する敦賀市は、対馬海流の影響により暖かいため照葉樹林がところどころに見られて、かつ落葉広葉樹林も存在していることから野生キノコの種類も豊富です。今まで本県で発生が見られていなかったルリハツタケ *Lactarius indigo*〔写真2〕も、1994年10月に敦賀市天筒山（標高100m）のアカマツが混じったシイ・カシ林の地上で群生しているのが確認されています。

1997年7月30日に実施された福井・石川きのこ会の交流会においては、天筒山で和名がつけられていない2種が初めて採集されました。ヒョウモンクロシメジ *Tricholoma pardinum*〔写真3〕とワカクサウラベニタケ *Entoloma incanum*〔写真4〕の2種で、いずれもシイ・カシ林やコナラ林内地上に発生する菌根菌です。この和名は、当時福井きのこ会顧問であった本郷次雄博士が同年の日本菌学会会報（日菌報38：99-100,1997）に掲載したものです。

このようなことから、当地域は大変興味深い場所であり、今後ともキノコ発生消長調査を進めていくことにしています。

●キノコの部位の名称

福井県初記録種

〔写真2〕　ルリハツタケ　*Lactarius indigo*
（2008.9.17　敦賀市天筒山）

日本初記録種

〔写真3〕　ヒョウモンクロシメジ　*Tricholoma pardinum*
（2011.11.6　敦賀市天筒山）

日本初記録種

〔写真4〕　ワカクサウラベニタケ　*Entoloma incanum*
（1997.7.30　敦賀市天筒山）

《あとがき》

秋といえばキノコということで、当館協力員できのこアドバイザーでもある笠原英夫氏に寄稿していただきました。現在日本では和名がつけられているキノコは約2,500種類ですが、和名がつけられていないものも含めると推定で5,000～6,500種類あると言われています。福井県内でも近年、次々と日本初記録のキノコが見つかっているようです。私たちの生活になじみ深いキノコですが、身近な場所でも珍しいキノコとの出会いがあるかもしれませんね。（中村）

《交通案内》

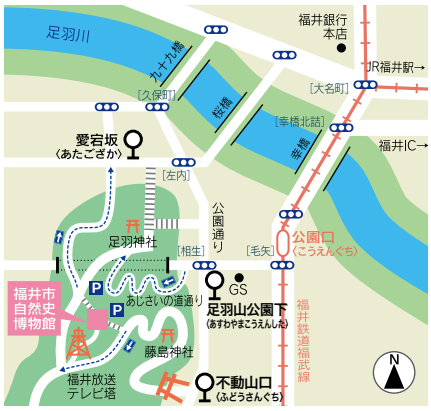
【電　車】
●福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バ　ス】
●京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（藤島神社登る）各徒歩10分
●コミュニティバスすまいる：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩10分

【徒　歩】JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間●午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）
休 館 日●月曜日（祝休日は開館）、国民の祝休日の翌日、年末年始
入 館 料●高校生以上100円（20名以上の団体は半額）
中学生以下、70歳以上、
障害者および付添の方は無料



編集・発行　福井市自然史博物館
〒918-8006　福井県福井市足羽上町147　TEL:0776-35-2844　FAX:0776-34-4460
E-mail:sizen@city.fukui.lg.jp　URL:http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp

PRINTED WITH SOY INK